

### 日台のかけ橋～台湾国父紀念館交流の旅 思いを寄せて

中華民國留日神戸華僑總會會長 陸 超



日台双方名刺交換



林同福会長献花



国父紀念館孫文銅像前

今年は孫文先生生誕150周年にあたり、神戸孫文記念館友の会と張文乃先生が理事長を勤める国際音楽協会が、台湾の国立国父紀念館と一緒に何か記念行事をしようということから始まり、国立国父紀念館に問い合わせると、大きいイベントは昨年しましたと、台湾では数え年で行くみたいですね。国立国父紀念館と相談した結果、私たちの時間は3時間しかないため、国父紀年館の林館長に『孫文先生と神戸』について30分の講演をお願い、国際音楽協会は国父紀年館1階孫文先生の銅像がある大広間で30分のロビーコンサートを行うことに決めました。

当日朝9時国父紀年館に到着、厳かな雰囲気の中で1階の孫文先生の大きな銅像の前で、儀礼兵のお手伝いで神戸孫文記念館友の会会長林同福先生が献花、続いて国際音楽協会理事長張文乃先生が献花をされました(儀礼兵は陸、海、空三軍が四ヶ月毎に交替し、忠烈祠、中正紀念堂、國父紀念館、桃園慈湖で行います)。国父紀念館の孫文先生の銅像に対して、儀礼兵が1時間ごとに交代の儀式を行い、たくさん入館者が

約15分この儀式を見て、この15分が終わると国際音楽協会のメンバーによる歌唱や演奏が30分を2回行いました。

台湾へ行く前に当日の観客が少ないのを心配しましたが、国父紀念館の林館長は「大丈夫ですよ、心配しなくていい」と言ってくれた通り心配する必要がありませんでした。国父紀念館の方で大きな看板や歌の曲名を書いた大きな案内板、ポスター、スケジュール表などを用意して頂いたのは予想外でした。

なりより国際音楽協会の歌は素晴らしい、レベルはこんなに高いとは想像していませんでした。特に最後の阿里山の歌は観衆も一緒に歌ってくれたのは心が通じ、すばらしいことでした。一つだけ残念なことが有り、一緒に参加したみなさまも同感と思いますが、時間が少ない、もう少し時間が有れば、もっと良かったと思います。

今回は、台北の故宮博物院や九份、日月潭、阿里山などの名所も観光できまし、お客様もとても良かったので、本当に楽しい旅行でした。国父紀念館林館長及び他の職員たち、この旅行に参加された皆様に心よりお礼を申し上げます。

友の会会員 加茂 建二

台湾は私の生まれ故郷であり、現役時代の台北事務所(工場は高雄)への何回かの出張、退休後のシルバーカレッジ中国語同好会の旅行を経て、今回が7回目でしたが「充実感」という点ではもっとも印象に残った旅の一つでした。

それはとりもなおさず、国父紀念館館長をはじめとした関係者の肌で感じられる温かいもてなしに触れ、歌と演奏を通じて現地の方々との交流ができたからだと思います。(『阿里山』は鳥肌が立ちました)。

閑空集合時は顔見知りの方がほとんど居なくていささか心細かったですが、国際音楽協会のたくさんの方々を知り合えたのも充実感を感じる大きな要因だと思います。ありがとうございました。



台湾の街路樹

企画運営委員 宮本 博



九份観光

交流会は、旅行会社陸社長の根回しと後藤企画運営委員長のがんばりのおかげで、国父紀念館に素晴らしい受け入れ態勢による盛大な歓迎を受け、大成功で終わったのは誇らしくもあり、感謝の一言に尽きます。全員無事に怪我もなく、病気もなく交流会の旅が終われたのは、何よりでした。友の会の役員の方々と張先生のグループの方々の気配り、ありがとうございました。林会長他スタッフのみなさま、交流会の成功おめでとうございました。館長室でのお茶とアイスクリームの接待は美味しかったです！

おかげさまで、台湾国父紀念館との交流の旅は成功裏に終わることができました。来日して32年が経て、正直なところ浦島太郎の気分での案内にはハラハラしていましたが、何とか喜んでいただけたようで、嬉しい限りです。

孫文を通じて、母国台湾の素晴らしい人々や風景・食文化などを触れてもらったことにより、日本と台湾の絆は更に深められたかと思います。この出逢いを大切に、これからも草の根活動を重ねていきたい。最後に、国父紀念館のみなさま、国際音楽協会張理事長、中華民國留日神戸華僑總會陸会長、友の会林同福会長・役員、そしてツアーに参加して下さったみなさまに、心から感謝申し上げます。(後藤みなみ)



国父紀念館貴賓室にて

### 「國父孫中山先生與神戸」

台湾國立國父紀念館館長 林 國章



國父孫中山與日本の關係密切、日本是他革命活動的最重要舞台、他所結交的國際友人中、也與日本人居多。1895年廣州起義失敗後、他亡命海外、首登的門戶就是神戸、最後一次(1924年)他出訪國外、以及演講「大亞洲主義」也是在日本的神戸。

眾所周知、日本是海外研究孫中山先生的重鎮、長期以來神戸の孫文紀念館(移情閣)就與本館有所往來、2013年7月、本館就在移情閣與孫文紀念館合辦「孫中山與日本」學術研討會、對於日本學者致力史料蒐集、研究、與文史研究成就、令人敬佩。

這次在林同福會長、張乃文理事長及陸超會長的策畫與帶領下、來到我館進行交流、讓我館同仁與您們的館友會、國際音樂協會的成員們有了交流學習的機會、也讓我們聆聽您們精彩的表演、確實增進了我們彼此友好情誼。

更難得的是三上隆先生(三上豐夷之孫)贈送一幅「革命」墨寶給我紀念館、他說這是當年孫中山寫給他祖父三上豐夷的墨寶、目前珍藏在移情閣內。這幅墨寶傳遞了三上豐夷與孫中山的這段革命情誼、也代表了貴我兩館長期以來友好交流。

更祝福各位嘉賓、身體健康、萬事吉祥如意。最後、期盼神戸與台北的所有市民、平安幸福、友誼長存。



### 「記一場日華國際交流音樂饗宴」

國父紀念館副研究員 劉 碧蓉

2016年8月20日上午、在臺北國立國父紀念館的國父銅像大廳中、舉行了一場空前的日華國際交流音樂會。這是由林同福會長所帶領的孫文紀念館館友會成員、以及張乃文理事長的NPO國際音樂協會團員、一行33人的訪問團、首次來到臺北、與我館進行的文化交流音樂會。

一行人準時來到紀念館、先與本館林國章館長進行簡短的交流與禮物互贈、隨即分二梯次進到大廳、在禮兵的引導、司儀的唱領下、向國父銅像獻花致敬。接著來到本館為他們準備好的簡易表演廳、由松田涼惠(新渡戸稻造的遠戚)獨唱、揭開本次音樂饗宴之序幕。這次的音樂會主要由揚琴、二胡這兩種樂器擔當伴奏大任、表演內容除了獨唱、合唱外、更有二胡、揚琴以及葫蘆絲的獨奏、最後再以一首全體合唱的「阿里山歌」、將整個會場的氣氛、熱情帶到高潮。

這雖是一場業餘愛好者的表演、演唱者穿著華麗端莊的旗袍與和服、專注與熱情的投入演出、深深的感動在場聆聽的參訪觀眾、大家齊聲鼓掌稱讚、為本次精彩的交流音樂會、畫上美好的句點。

國父孫中山は日本と密接な關係にあり、日本は彼の革命活動の最重要な舞台であつた。孫文と交流のあつた友人のなか、日本人は最も多かつた。1895年広州で蜂起して失敗後、海外へ亡命した際、一番最初に行ったのも神戸であつた。孫文の最後(1924年)の外国訪問、及び「大アジア主義」の講演も日本の神戸であつた。

みなさまが周知のように、日本は海外における孫中山先生を研究する重要な都市であり、長年にわたり神戸の孫文紀念館(移情閣)と本館は往来しています。2013年7月、本館は移情閣で孫文紀念館と共催で學術シンポジウム「孫中山と日本」を開催しました。日本の學者における史料の蒐集、研究、文献の研鑽に尽力されることに敬服いたします。

今回林同福會長、張乃文理事長と陸超神戸台湾華僑總會會長の計画と引率で、本館との交流を進めることができました。本館の職員に移情閣友の会や国際音楽協会のメンバーと交流学習する機会を与えていただき、また、私たちに皆さんの精彩の演奏を聞かせていただき、双方の友好な情誼を確実に増進しました。

さらにあり難たいのは、三上隆さん(三上豐夷の孫さん)所蔵の「革命」という貴重な書(復刻品)が本紀念館に贈られました。これは当時孫中山先生が彼の祖父三上豐夷宛に書き送った貴重な書であると教えてくれました。本物は現在移情閣に大切に保存されています。この書は三上豐夷氏と孫中山との革命の情誼の証であるとともに本館と神戸孫文紀念館両館の長期にわたる友好的交流を表してもあります。

皆様のますますのご健勝とご多幸を心から祈ります。最後に、神戸と台北のすべての市民の平安と幸福を願い、友情が長くつづきますように。(後藤 藤)

2016年8月20日午前、台湾国立国父紀念館の孫文銅像ロビーにおいて、空前の日華國際交流音樂会を催しました。今回は、林同福會長が率いた孫文紀念館友の会會員と張文乃理事長のNPO國際音樂協會團員一行計33人の訪問団が初めて台北に訪問され、本館と文化交流音樂会を開催しました。

一行は時間どおりに紀念館に到着。はじめに本館林國章館長と簡潔なあいさつと記念品の交換をしたあと、すぐに2班に分かれてロビーへ移動、礼兵の誘導と司会の進行に従い、孫文の銅像に献花し表敬しました。それから、本館が準備した特設会場に移り、新渡戸稻造的遠戚にあたる涼惠の独唱で交流音樂会の幕が上がりました。

今回は専門家とアマチュアによる演奏で、歌手は華麗なチャイナドレスと和服を着て、情熱的に全力を注いだ演出でした。参加された聴衆は深い感動に包まれて、みんな一斉に拍手喝采し、今回の精彩な交流音樂会に美しい終止符を打つことができました。(後藤 みなみ記)